東京ＦＩＡニュース

第４５号　2008年9月1日　東京国際農業者協会

ハイライト：

帰国報告　「時代の変遷と派米研修」

総会資料　決算報告・予算

海外　「ベトナムと日本の交流史」

目次：

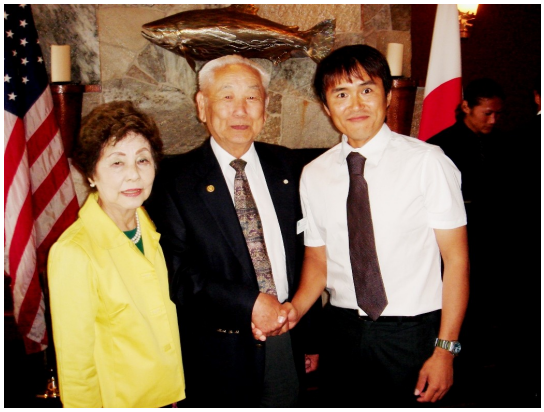
帰国報告	1
帰国報告・懇親会	2
H19年度決算報告	4
H20年度予算	5
ベトナムと日本の交流史	6
営農研究会ご案内	7
名簿作成のお願い	8

平成２０年度帰国報告会

６月２３日（土）代々木オリンピックセンターで帰国報告会が開催されました。今回は米国２年制の狩野兄の報告を掲載します

狩野　誠　　野菜専攻

時代の変遷と派米研修



「派米研修の思い出および感想」の執筆を依頼され、現在筆を握っている。今でも夢に出てくるくらいこの研修における思い出は深い。米国での二年間はとにかく必死だった。どんなものでも学んでやろうという意気込みのもと、農場実習も学科研修もなりふり構わず行けるところまで突っ走った。

長期農場では小生が日本人初の研修生だったため、とにかく力が入った。持続可能な農業、ＣＳＡプログラム、更にはファーマーズマーケットの運営や地元ＮＧＯが中心となった農業ビジネスの構築など、新しい技術やビジネスを習得した。学科研修ではリーダーとしてグループ運営に日々奔走した。また、学科研修の最大の成果といえば、カリフォルニア大学デービス校にて執筆した英文農業ビジネスレポートであろう。こちらは最終的に地元の中小企業支援センターより評価をされ、感謝状をいただいた。なお、語学力の向上も果たされ、先日外資系企業にて英語面接を受けたが、まったく問題ないというお墨付きをいただいた。このプログラムの素晴らしい点は、本人に学ぶ意志さえあれば、年齢や性別、学歴や出身を問わずいくらでも学ぶ機会が与えられることである。

こうして充実した研修生活を送る最中、このプログラムについて客観的に考える機会もあった。小生の人生を語る上で欠くことのできない本プログラムであるが、時代の変遷とともにその趣旨も変わりつつあるようだ。米国本土二年生農業研修プログラムはグループＯＯ（第四十一期生）の帰国をもって終焉を迎えた。二年制プログラムの前身である三年制プログラムを含めると五十年以上の歴史をもつこのプログラムも、今や変革の時を迫られている。国からの予算枠の縮小や農業を志す若年層人口の減少など、このプログラムを取り巻く国内の事情は明らかに変化している。研修生受け入れ国である米国の事情も目まぐるしく変化している。五十年前の受け入れ農家と現在の受け入れ農家を比較すれば、その顔ぶれも経営方針も大なり小なり違うことがおわかりだろう。

では、プログラムの主役である研修生についてはどうか？研修生も各年代における違いが大なり小なりあると思われるが、強いて違いを挙げるのであれば、今の研修生には多くの「自由」がある。決して悪い意味ではなく、そういう時代なのである。この「自由」という産物が時として良いように働くこともあれば、悪いように働くこともある。また、見方を変えれば、研修生はその時代を映し出す鏡なのかもしれない。とかく「自由」という言葉が横行するこの時代を反映しているのであろう。「自由」は若い研修生たちに多くの選択肢と可能性を与えるものの、その反面全ての意思決定は研修生自身に委ねられる。それはまさにこのプログラム内だけでなく、プログラムを終了し実社会に出ても同じことである。

このように本プログラムにおいて、小生は日々学び、考え、そして行動してきた。きっとかつて米国本土にて研修を行っていた諸先輩方も、今米国本土にて活躍している後輩の皆さんも同じであろう。時代の変遷とともにプログラムの趣旨も変化しているが、きっと変わらないのは研修生が日々学び、考え、行動していることであろう。そして決して変わらないものは、今まで本プログラムを支えてくださった諸先輩方の偉業への感謝と自分を支えてくれた人々への感謝である。時代は移りゆくものの、本プログラムが将来にわたり継続されることを願い、小生も微力でありながらも協力していく所存である。

平成 20 年度帰国報告会＆懇親会アルバム

平成 19 年度決算報告

自主事業

期日	項目
6月23日	平成19年度総会、帰国報告会
8月31日	研修生選考会
10月21日	ハーベストパーティー
12月9日	サンクスパーティー
2月3日	研修生壮行会

参加行事

期日	項目
6月13日	交流協会総会（第1回）
6月22日	米2研修生帰国解散式
6月25日	米コンビネーション研修生壮行会
11月8日	ブロック営農研究会
11月9日	ブロック組織会長会議
12月6日	地産地消国際シンポジウム
3月2日	欧州研修生壮行会
3月11日	全国会長会議
3月12日	交流協会総会（第2回）
3月28日	欧州研修生帰国解散式

科　目	19年度予算額	19年度決算額	差異	備　考
＜前期繰越金＞				
現金	41,978	41,978		
普通貯金	183,167	183,167		
定額貯金	1,000,000	1,000,000		利子累計　1,101
前期繰越金合計	**1,225,145**	**1,225,145**		
＜収入の部＞				
入会金	0	0	0	
会　費	350,000	265,500	▲ 84,500	77人分
受験料	10,000	5,000	▲ 5,000	1人分
寄付金	0	116,080	116,080	
活動収入	300,000	208,000	▲ 92,000	別表1参照
雑収入		155		利子
当期収入合計Ⅰ	**660,000**	**594,735**	**▲ 65,265**	
＜支出の部＞				
正会員費	100,000	100,000	0	国際農業者交流協会
会議費	30,000	27,176	▲ 2,824	会場費等
通信費	50,000	43,320	▲ 6,680	切手、はがき代等
事務費	10,000	22,980	12,980	ファイル、封筒代等
選考費	10,000	8,900	▲ 1,100	会場費、謝金等
活動費	400,000	304,732	▲ 95,268	別表1参照
基金拠出金	30,000	50,000	20,000	
雑　費	30,000	0	▲ 30,000	慶弔金等
当期支出合計Ⅰ	**660,000**	**557,108**	**▲ 102,892**	
収　支　Ⅱ	0	37,627		
＜次期繰越＞				
現金	41,978	127,450		
普通貯金	183,167	133,322		
定額貯金	1,000,000	1,000,000		利子累計　1,762
次期繰越金合計	**1,225,145**	**1,260,772**		
正味財産合計	**1,225,145**	**1,262,772**		

表1　活動費明細

科　目	収入	支出	残高
総会	36,000	62,180	▲ 26,180
ハーベストパーティー	92,000	67,752	24,248
サンクスパーティー	44,000	44,000	0
壮行会	36,000	49,300	▲ 13,300
農大セミナー	0	30,000	▲ 30,000
国農協関連	0	51,500	▲ 51,500
合計	**208,000**	**304,732**	**▲ 96,732**

平成 20 年度予算

科　　目	１９年度決算額	２０年度予算額	差異	備　　考
＜前期繰越金＞				
現金	41, 978	127, 450		
普通貯金	183, 167	133, 322		
定額貯金	1, 000, 000	1, 000, 000		利子累計　1, 762
前期繰越金合計	1, 225, 145	1, 260, 772		
＜収入の部＞				
入会金	0	10, 000	10, 000	5, 000X2人
会　　費	265, 500	350, 000	84, 500	3, 500X100人
受験料	5, 000	20, 000	15, 000	5, 000X4人
寄付金	114, 080	0	▲ 114, 080	
活動収入	208, 000	250, 000	42, 000	別表１参照
雑収入	155		▲ 155	利子
当期収入合計Ⅰ	592, 735	630, 000	37, 265	
			0	
＜支出の部＞			0	
正会員費	100, 000	100, 000	0	国際農業者交流協会
会議費	27, 176	30, 000	2, 824	会場費等
通信費	43, 320	50, 000	6, 680	切手、はがき代等
事務費	22, 980	20, 000	▲ 2, 980	ファイル、封筒代等
選考費	8, 900	10, 000	1, 100	会場費、謝金等
活動費	304, 732	350, 000	45, 268	別表１参照
基金拠出金	50, 000	30, 000	▲ 20, 000	
雑　　費		30, 000	30, 000	慶弔金等
当期支出合計Ⅰ	557, 108	620, 000	62, 892	
収　　支　Ⅱ	35, 627	10, 000	▲ 25, 627	
＜次期繰越＞			0	
現金	127, 450	60, 950	▲ 66, 500	
普通貯金	133, 322	209, 822	76, 500	
定期貯金	1, 000, 000	1, 000, 000	0	
次期繰越金合計	1, 260, 772	1, 270, 772	10, 000	
正味財産合計	1, 260, 772	1, 270, 772		

自主事業

期日	項目
6月28日	平成20年度総会、帰国報告会
8月28日	研修生選考会
10月5日	ハーベストパーティー
12月10日	サンクスパーティー
2月8日	研修生壮行会

参加予定行事

期日	項目
6月18日	交流協会総会（第1回）
6月24日	米コンビネーション研修生壮行会
6月26日	米2研修生帰国解散式
10月22日	ブロック営農研究会
10月23日	ブロック会長会議
12月8日	米コンビネーション帰国解散式
3月1日	欧州研修生壮行会
3月24日	米コンビネーション研修生壮行会
3月27日	欧州研修生帰国解散式
3月	全国組織会長会議
3月	交流協会総会（第2回）

ハーベストパーティー

10月5日（日）
立川市　高杉宅
次号で詳しく紹介します

表１　活動費明細

科　　目	収入	支出	残高
啓発	20,000	50,000	▲ 30,000
総会	50,000	70,000	▲ 20,000
ハーベストパーティー	80,000	70,000	10,000
サンクスパーティー	50,000	70,000	▲ 20,000
壮行会	50,000	60,000	▲ 10,000
国農協関連	0	30,000	▲ 30,000
合計	250,000	350,000	▲ 100,000

ベトナムと日本の交流史

佐々木　忠弘（米２　Ｓ５３派遣）

ドライブ中のひとコマ

佐々木兄のご家族

ホイアン１

ホイアン２

ここ１０年ほど（実計８年）、家内の出身国であるベトナムに居住（４年はJICA派遣）しているので、ベトナムと日本の交流の歴史を紹介してみたい。

ベトナムは、紀元前１１１年に中国（前漢）の領土の一部に組み込まれたことから、史実に残る歴史（中国の歴史書に記載）は、日本より古い。といっても、中国の領土だったのは、ベトナムの北部（ハノイ周辺）の一部であり、他の地域は、現在のカンボジアの祖先にあたるクメール人やインドネシア系の小王国などが点在していた。

史上はじめて、日本とベトナムが関わるのは、紀元後７００年前後に、遣唐使として中国に派遣され、現地（唐王朝）で重用された阿部仲麻呂が、現在のベトナム北部に相当する安南地方の長官に任じられて赴任したことである。ベトナムは９３８年に、中国軍に大勝して、史上初めて中国のくびきから遁れて、独立を達成するが、この時のベトナム（レ王朝）の領土は、北部から中部の一部に掛けての北半分だけであった。

今日でも、その史跡が確認できる日本との関わりは、１６世紀（安土桃山から江戸初期）に日本の商人が多数居住して、日本人街をベトナム中部のホイアンに形成したことに遡る。現地に客死した日本人の墓石がいくつか残っているほか、通称日本橋とよばれる屋根つきの橋が、現存している。しかし、ホイアンの日本人街も江戸幕府の鎖国政策を端緒に、歴史の渦のなかに泡と消えていった。

次に、日本と関わるのは、明治維新後の近代日本が、日露戦争に勝利して、世界の列強として、アジアの強国に躍進する時期で、１８７４年以降、フランスの植民地に甘んじていたベトナム（グエン王朝）の独立派の知識人が、日本を手本に独立を勝ち取ろうと、日本国内の有力者の支援を得て、日本に留学した「東遊運動」（１９０５年前後）である。しかし、日本への期待も、１９４０年の日本軍の仏領インドシナへの進駐で、失望に終わる。終戦直前に、日本軍は、インドシナ地域の仏軍を武装解除したが、この時期に、日本軍がベトナム国内の米を強制徴用したことから、折からの不作と重なって、現地住民が多数（死者１００万人以上という説も）餓死する状況も発生している。

大戦終結により、日本軍による占領（傀儡政権を通じた実効支配）から開放されたベトナム（共産党政権）は、１９４５年９月、ハノイで独立を宣言するが、これを認めない宗主国フランスと戦争状態（インドシナ戦争）になり、１９５４年のデンビエンフーの戦いに勝利して、やっと北半分を実効支配することができた。しかし、１９６５年からは、反共の南ベトナム政府を支援する米国と戦争状態（ベトナム戦争）に入り、１９７５年４月のサイゴン陥落まで、多大の犠牲（死者３００万人以上）を払った。

ベトナム戦争は、現在の日本人の記憶にも新しいところで、折からの日米安保などを巡る学生運動などと連動した「ベトナムに平和を」連合（ベ平連）の運動は、反戦運動のシンボルともなったが、ベトナム（共産党政権）にとって、日本は、沖縄の在日米軍基地が、米国軍の主要な兵站基地となっていることを黙認した敵性国家であった。ベトナム戦争特需も日本の高度経済成長に貢献した。しかし、１９９３年の本格的な交流再開以降、日本は経済協力を積極的に推し進めるなどして、ベトナムとの友好関係を醸成し、多数の日本企業の進出などもあり、現在は、非常に、良好な関係を構築している。

ブロック営農研究会のご案内

下記の通り、ブロック営農研究会が開催されます。東京ＦＩＡ活動の一環として、参加者の経費を一部負担いたします。参加ご希望の方は、9月5日までに事務局までご連絡ください。

■平成20年度関東甲信静越ブロック営農研究会

主催）社団法人国際農業者交流協会、神奈川県国際農業研究会

日時）平成20年10月22日（水）午後1時から（受付は午後12時30分から）

場所）メルパルク横浜　横浜市中区山下町16 電話 045－661－8151

テーマ）「どうなる・食料確保は農家の責任か？」

内容）１．横浜港における輸入農産物の状況視察

２．講演 「輸入農産物の実態（安心して食べることができますか？）」

港湾労働組合書記長 奥村 芳明 氏

３．講演 「タマサート大学研修生として来日してからの私」

三重大学大学院生物資源学研究科 WIKANYA PRATHUMYOT 氏

交流会費）7,000円（東京ＦＩＡで負担します）

平成20年度東海・近畿・北陸ブロック営農研究会

主催）社団法人国際農業者交流協会、奈良県国際農業者交流協会

日時）平成20年9月29日（月）14：00～20：00

場所）奈良ロイヤルホテル　奈良市法華寺町254TEL:0742－34－1131

テーマ）「攻めの農業・柔軟な発想を活かして」

内容）１．基調講演

演題「ラン業界で世界一に輝いた経営とは」

講師　アンディ松井（マツイナーセリー社長）

２．パネルディスカッション

パネリスト　アンディ松井（マツイナーセリー社長　）

長村　智司（大阪テクノホルティ園芸専門学校校長）

別所　矩佳（奈良県花き植木農業協同組合代表理事組合長）

澤　伸嘉（奈良県指導農業士会副会長）

コーディネーター　井上　源一（奈良県国際農業者交流協会会長）

参加負担金）研究会　2,000円（東京ＦＩＡで負担します）

懇親会費　8,000円（4,000円/半額負担します）

営農研究会参加者募集

申込締切
9月5日（金）

連絡先
（社）国際農業者交流協会
情報交流課 窪田
E-Mail: e_kubota@jaec.org
Tel: 03-5703-0253
Fax: 03-5703-0255

名簿作成のお願い

東京ＦＩＡ活動方針の中で、帰国研修生への支援が重点課題として決定いたしました。帰国したばかりの研修生の便宜を図り、また会員同士が気軽に連絡を取れるよう、名簿を新たに作成することにいたしました。

つきまりては下記書式に必要事項をご記入の上、事務局まで返送して下さい。送られた個人情報は事務局で責任を持って管理いたします。氏名以外の個人情報の記載をご希望でない個所は未記入のまま返信して下さい。なお派遣先、年度などの基礎情報は掲載されますので、ご了承ください。

基　礎　デ　ー　タ				
氏名		生年月日		
住所				
派遣先｜専攻			派遣年度	
勤務先			営業形態	
勤務先住所			業種	
部署		役職		
電話番号		ＦＡＸ		
携帯		電子メール		
追　加　デ　ー　タ				
ホームページ				
趣味				
特技				
自己ＰＲ				

送　付　先	（社）国際農業者交流協会 情報交流課 窪田　E-Mail: e_kubota@jaec.org 〒144-0052　大田区蒲田5-39-2-6F　Fax:03-5703-0255

ＦＩＡニュースへコメントをお寄せ下さい（ご意見ご感想、仲間への伝言などなんでもどうぞ）

ー　編集発行　ー
東京国際農業者協会
〒144-0052
大田区蒲田5-39-2-6F
（社）国際農業者交流協会内
TEL:03-5703-0254
FAX:03-5703-0255
発行責任者：村田　正
E-MAIL:farm@planet.nifty.jp